

# 土木學會選奨土木遺産

う つ の み や し す い どう し せ つ ぐ ん

## 宇都宮市水道施設群

### 平成 17 年度認定

○所在地：栃木県宇都宮市、日光市

○竣工年：①今市浄水場：1916（大正5）年

②第六号接合井：1916（大正5）年

③戸祭配水場：1916（大正5）年

○構造形式等：①今市浄水場：・旧管理事務所：木造2階建洋風建築  
・旧着水井等：煉瓦造

②第六号接合井：煉瓦造

③戸祭配水場：煉瓦造（フランス積）

○管理者：宇都宮市

位置図



写真①



六号接合井は、今市浄水場で処理された水を、約 26 km・標高差 240mの戸祭配水場まで送水する際に、送水管にかかる水圧を緩和するため6箇所設置された接合井の一つです。これらの接合井は、標高が約 30m下がる毎に1箇所設置されました。

1949（昭和 24）年の地震による被害により、当時のまま現存するのはこの第六号接合井だけです。

日光街道沿いの小高い丘の上に立つ八角形の建屋は、赤煉瓦と地元産大谷石の白い隅石による構造で、威風堂々とした風格が感じられます。（写真②）

写真③



宇都宮市水道施設は、1913（大正2）年12月に着工し1916（大正5）年3月に竣工した、国内31番目となる近代水道施設です。

今市浄水場は、日光街道沿いの今市市瀬川（現日光市）に、浄水能力10,000m<sup>3</sup>/日として建設されました。

管理事務所として築造された建物は、矩形と円筒形を合わせた白を基調とした洋館で、矩形部分のドーマー窓のある赤い半切妻屋根や円筒部分の赤い屋根・庇とのコントラストが、優美な印象を与えています。

現在この洋館は、宇都宮市水道資料館として保存・活用されています。（写真①）

また、敷地内にある旧着水井・旧ブロック形成池、さらに円筒状の出水井の上屋は煉瓦で組成されており、創設当時の面影を今に伝えています。

写真②



戸祭配水場は、宇都宮市に近代水道が創設されて以来、現在も現役で稼働している施設です。

配水池の側面は、艶のあるやや黒味がかかった煉瓦で組成され、全体をフランス積みで組成し、5重の縦積みによる12連のアーチが連続する景観は圧巻であり、創設に携わった当時の技術者の高い美意識とともに、近代の精華が息づいています。（写真③）

1985（昭和60）年、厚生省（現在の厚生労働省）より、今市浄水場が「近代水道百選」に選定され、2006（平成18）年、これらの施設は、国登録有形文化財として、文化庁の「文化財登録原簿」に登録されました。